

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 音楽特化型療育支援 音のはびねす

公表日 令和8年1月7日

利用児童数 21名

回収数 16名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14			2		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14			2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	3				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	4			活動空間は十分かと思います。安全面も気になるところはありません。何度かお邪魔した際、少し匂いが気になりました。絨毯貼りなので清掃や消毒も大変かと思いますが、少し気になる点でした。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1		1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	1		1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	2	6		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	2				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1	1	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	13	3				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	2	1	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	1	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	3				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	3	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		音楽特化型療育支援 音のはびねす				公表日	令和8年1月7日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1		クールダウンできる個室のような場所がほしい。 環境設定の工夫が必要 クールダウンをする部屋がない	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		役割分担を決める		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	壁面は最低限の情報になっていると思う 展示物をなるべく置かない	子ども達が自分の物の管理がしやすいように、棚などの改善が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	マットの色味	穴が空いてたり、はがれやすい所があるため補強したい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	7		個室がない 区切られたスペースが無く、個別に落ち着いて対応する場所があった方がいいと感じる クールダウンの部屋をつくりたい クールダウンのスペースが必要 個室はあるが、音は聞こえてしまう。改善できればしていきたい。 個室部屋がない	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		毎週三三PDCAサイクルを行い、目標とやるべき行動を明確に出来ている 会議も定期的に行われている 三三会議や日々の共有などを行う		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		利用者アンケートや療育参観		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	情報を共有する		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	3ヶ月に1度の会議		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	研修も定期的であり良い 研修をたくさん受ける機会がある	今後、研修などの時間を今より増やしたい	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		月毎にプログラムが変わり、公表されている 音楽会議等を通して情報を共有し、向上に繋げていく		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		お子さんに応じて専門支援を行っている 日頃から保護者様や子どもたちと信頼関係を築く		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		支援会議などで共有されている 職員の意見を出し合い支援に繋げている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援会議で来所児童の支援内容の共有ができて いる点が良い 毎朝支援会議で確認している 毎日個別支援計画を確認し、日頃から意識して療育を行う		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		お子様の細かな変化も聞く		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		支援内容を会議時に随時確認し、更新も出来ていて良いと感じる。 保護者様や子どもの意見を尊重する	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		チームというよりかは毎月2人のペアで担当制で行っている お子様のニーズを考えた教材づくり	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		季節に合わせて内容を変えたりして工夫されている 週一でプログラムを変える	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		緩急を意識したプログラムが交互に行われている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		前の月に音楽会議を行い、そこで打ち合わせする 毎日、支援会議を行なっている	起こるかもしれない事柄を事前に把握し、考えて行動する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		前日の支援で気づいた事などを引き継ぎ、共有している 終礼で共有されている 終礼ではその日の内容を職員間で共有する	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		サービス提供を書く際、個別支援計画に沿って考える	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		先を見越し、ひとつずつ成長していけるよう支援内容を考える	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			皆が理解を深め、参加できる心意気で取り組む
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		お子様の持病等は十分注意する	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			学校での様子を日頃から聞くように
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	3		就学時、進学先の先生と情報共有を行い、連携をとれる関係づくりが必要。 保育園見学を通して意見を交換する
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	4	相談員さん等情報を共有する	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	6	地域に根付く療育		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		保護者様からの意見を汲み取る		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	講習会等	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		他事業所との連携	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			保護者から丁寧に話を伺う
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		個別支援計画の内容確認	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			LINEだけではなく送迎の際などでコミュニケーションをとる
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			職員間で意見を共有し、改善に務める
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		インスタなどの発信	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			個人名はなるべく出さない、個人情報を管理する場所
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			子どもからも意見を聞く
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	2		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		ノロの対応についての研修があり、場面を想定して周知できた。 研修などを通して場合を予測しておく	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		避難訓練	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		来所時に毎回確認している	保護者様からもどのように対応したら良いか意見を交換しておく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		お菓子のアレルギー徹底	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			事故が起きないよう環境設定に注意する
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		避難訓練の事前連絡	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		前日のヒヤリハットの共有を毎回している	職員間で意見を交換し、再度起こることがないよう対策を練る
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		子どもへの声掛けの工夫	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	1	保護者様と対応を共有する		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	音楽特化型療育支援 音のはびねす			
○保護者評価実施期間	令和8/1/7		～	令和8/1/24
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	令和8/1/7		～	令和8/1/24
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8/2/6			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育プログラムが充実している。	季節に合わせて内容を変えたり、週一でプログラムを変えている。 毎月、音楽会議を行いスタッフ間で意見を出し合いプログラムを工夫している。	子ども達や親御様の意見も募り、子ども達が通いたくなるようなプログラムを作る。
2	研修が充実している。	社内で定期的に安全研修や虐待防止研修等を行っている。 リタリコ発達ナビ等を活用し、スタッフそれぞれが自主的に研修を申し込みをして受講している。	研修の振り返りをさらに強化し、勉強会を積極的に開催し、情報の共有と充実を図る。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンできるスペースがない等、療育環境が整っていない。	活動スペースに限りがあり、工夫が必要。 距離感や今やるべきことなど、スタッフ側の環境設定が足りない部分がある。	パーテーション等を活用し、クールダウンスペースを作る。 声掛け支援で行き届かない部分は、絵カードやパネルを使って視覚的支援も取り入れる。
2	保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所、児童発達支援センター等との連携が少ない。	普段の業務に加えて、連携機関と関わる時間が少ない。	業務の効率化や人員配置の最適化を行い、連携機関と関わる時間を増やす。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 音楽特化型療育支援 音のはびねす

公表日 令和8年1月7日

利用児童数 49名

回収数 35名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	2	1	4	部屋は狭いと思っています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	30	3		2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31	1		3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	29	2		4		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	31			4		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34			1	音はびに通うようになって友だちのやりとりも学び会話や言葉の意味も少しずつわかるようになってきたと思います。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34			1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	2		2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33			2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	4		2		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	6	6	13		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	3		10		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	31	3		1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31		1	3		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	6	3	9	保護者懇談会をしてみたいです。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	2		5	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	33	1		1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31			4	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32			3	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	1		8	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	1		7	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	2		2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28			7	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	1		1	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	4		1	慣れからか、退屈という言葉がはじめている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	3			今年度は、高学年になったことで本人なりの心境の変化などもあり、夏休み頃から思うように通所出来ないことが続いていました。歌やダンスなど、音楽に関わることが元々好きなのはあるので、本人の気持ちに寄り添いながら今後の方向も考えていけたらと思っています。とても子供に寄り添い、心優しい先生方が多い印象です。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		音楽特化型療育支援 音のはびねす				公表日	令和8年1月7日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	4	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	1	個別対応を行っている児童の人数、MCとピアノとの兼ね合いで職員数が足りないように感じる職員の人数が増え、療育に向き合う時間が増えた		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1		クールダウンできるスペースまたは部屋がほしい。シンプルな配置	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	3		壁紙が剥がれてたり穴が空いているところなどは補強したいなるべく最小限の部屋作り	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	6		クールダウンスペースが必要区切られたスペースがなく、個別で対応できる場所がないように思うクールダウンの部屋は欲しいクールダウンのスペースをつくる	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		定期的に会議がされて毎週ミニPDCA会議をおこなっている	自分の業務の質をあげる	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		LINEなどから気軽に答えやすく		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	起きた事柄や相談などを話せる環境		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4	色々な視点から物事を考える		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	2	研修を受ける機会が定期的に研修を受ける機会がある		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		保護者さまにもプログラム内容を伝えることが多い		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		ひとりひとりにあった支援内容		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		職員の意見を聞き作成できている 職員間の意見交流		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		毎日の支援会議で支援内容を改めて意識して療育が行われている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		細かな変化も記入		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		ご家族様の意見を尊重する		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		意見を共有して相談し合いながら計画を立てる		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		毎月会議が行われている アイデアを出し合う	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		緩急のついたプログラム内容	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎日支援会議を行なっている 前の月に音楽会議を行い、内容を確認している	その日の支援で何を意識するか考える
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	9		終礼で振り返りを行なっている 終礼等での情報共有	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		マンネリ化しないサービス提供の書き方	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		ひとりひとりに寄り添う支援内容	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		様々な面からのアプローチ	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		使っている備品等を統一する工夫		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		興味を持つ	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1		子どもの持病は対応や注意すべき点を確認しておく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		学校の予定に沿ったプログラム内容の変化、イベント実施	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3		さらに連携が必要
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3	先を見越したアプローチの仕方	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	4		さらに連携が必要
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	5		他の子供と活動する機会は少ない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1	職員間で意見を共有する	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎の際などささいなコミュニケーションを大切に する	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3		あまり行えていない	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		個別で対応することもある	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		子どもたちに寄り添った支援	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			保護者さまと確認する機会をつくる

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		必要な場合は相談機関や他事業所等を勧める等	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	懇談会の実施	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		問題に早急に対応し、その後の再発防止に努めている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9			保護者様に予定、連絡等は早めに連絡する
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		管理の仕方	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		子どもに沿ったプログラムカードや絵カードの作成	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	地域に根付くような事業所を目指す	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		研修などを通して事態を想定しておく	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		避難訓練の実施	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		てんかんや発作についての理解と対応を深める	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		かかりつけ医を把握しておく	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1	子どもたちを意識した環境設定	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2		安全等の周知はより伝えていくべき
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		内容を共有、なぜ起こってしまったかを職員間で意見交換し、今後に向けて対策を練っている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			言葉遣いや態度等を気をつけて接する
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	1	保護者様の意見や同意を得ている		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	音楽特化型療育支援 音のはびねす			
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	令和8年1月7日		～	令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育プログラムが充実している。	季節に合わせて内容を変えたり、週一でプログラムを変えている。 毎月、音楽会議を行いスタッフ間で意見を出し合いプログラムを工夫している。	子ども達や親御様の意見も募り、子ども達が通いたくなるようなプログラムを作成する。
2	研修が充実している。	社内で定期的に安全研修や虐待防止研修等を行っている。 リタリコ発達ナビ等を活用し、スタッフそれぞれが自主的に研修を申し込みをして受講している。	研修の振り返りをさらに強化し、勉強会を積極的に開催し、情報の共有と充実を図る。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンできるスペースがない等、療育環境が整っていない。	活動スペースに限りがあり、工夫が必要。 距離感や今やるべきことなど、スタッフ側の環境設定が足りない部分がある。	パーテーション等を活用し、クールダウンスペースを作る。 声掛け支援で行き届かない部分は、絵カードやパネルを使って視覚的支援も取り入れる。
2	学童や特別支援学校、相談支援事業所等との連携が少ない。	普段の業務に加えて、連携機関と関わる時間が少ない。	業務の効率化や人員配置の最適化を行い、連携機関と関わる時間を増やす。
3			